

懸案事項及び諸問題解決のため
調査研究を行いました。

総務民生常任委員会報告

委員長 福中 満

日程 平成27年11月12日
場所 福知山市
内容 防災に関する取組みについて

福知山市の災害

福知山市ではこの10年間に、台風（平成16年・25年）や集中豪雨（平成26年）によって大きな災害を経験している。特に平成26年の集中豪雨では、2日間に335mmという観測史上最大の集中豪雨により、甚大な浸水被害が発生した。

防災の課題

これらの災害経験から、防災上の様々な課題が明らかになった。

- 夜間の急激な豪雨であったため、市街地の浸水被害状況が把握できなかった。
- 避難勧告を発令した時点で、避難所の開設が間に合わなかった。
- 猛烈な雨、激しい雷により、防災行政無線による伝達が十分伝わらなかった。
- かつて浸水被害を経験したことのない地域にも浸水があったため、市民の避難が間に合わず、また多くの車両も水没した。
- 広範囲の浸水地域での救助活動、同時多発する土砂災害の救助活動は困難を極めた。
- 由良川の決壊ではなく、平地の排水機能の限界を超える降雨により浸水被害が生じた。

防災対策～災害に強い町づくり～

- ①ハード対策（事業期間H27～H31、総事業費約62億円）
国・府・市の3者がそれぞれ役割分担し、事業を実施することにより、平成26年度豪雨と同規模の降雨に対して、浸水被害を防止できることを目標に事業を進めている。
 - 排水機場の増強 ○河川改修 ○調節池整備 ○下水ポンプの増強等
- ②情報収集・市民への伝達機能の強化
 - 防災情報ライブカメラ整備 ○ハザードマップ作成・全戸配布
 - 防災行政無線整備 ○防災情報緊急告知ラジオ導入 ○防災メールの充実
- ③市民と共につくる災害に強いまちづくり
 - 自主防災組織育成（出前講座、資機材補助）
 - 土のうステーションの設置
 - 消防団の機能強化（浸水救助資機材整備・水防活動）
 - 災害に即応できる最適な広域避難所の再配置

説明のまとめとして強調されたこと、それは「自然を相手にするには、ハードのみに頼らないソフト対策が必要」ということであった。各地域の自治会等の自主防災組織において、住民が相互によく話し合い、防災についての共通認識を深めていくこと。それは能勢町にとっても今後の重要な課題であり、福知山市の実践から学ぶ点も多い。



福知山市防災センターを視察しました